

問題

いわゆる「ゆとり世代」の若者が社会で活躍していく上で、強みとなることと課題となることについて、あなたの考えを述べなさい。

解答のポイント

近年、裁判所の論文では、若者の労働に関わる出題が多いが、今回も同様である。「ゆとり世代」についてある程度定義づけをし、その世代の若者の特徴を挙げよう。ゆとり教育や社会背景などを踏まえて述べることで、意見に説得力を持たせられるとよいだろう。

解答例

「ゆとり世代」の定義や範囲は明確に定まっていないが、私は小中学校において 2002 年度、高等学校において 2003 年度に施行された学習指導要領、いわゆるゆとり教育で育った世代をそれとして考える。

ゆとり教育によって、学校週 5 日制になったことで、課外活動の時間が増え、その中で目的意識を持ち、自己を高めていくことができるようになった。日本のみならず世界で活躍するスポーツ選手が増えたことはその一例として挙げられる。

また総合的な学習の時間の導入により、情報教育の中で高い情報リテラシーを身につけたり、ボランティアや地域活動などに参加したことで社会貢献に対する意欲が向上したと考えられる。情報化社会である現代において、仕事の中でも情報通信機器の使用が不可欠であるため、新たなツールを柔軟に受け入れ、有効に活用していく力はゆとり世代の強みになると言えるだろう。また社会貢献の意欲が高い若者が多いということは、高齢化や人口減少が進む中で、社会を支える大きな力となりうる。

一方、ゆとり教育によって基礎学力が低下したという指摘もあり、それによって職場などにおいて能力格差が生まれることが課題として考えられる。学力が優秀であることが全てだということではないが、仕事をする上でも基礎学力は不可欠である。その中で格差が生じてしまった場合、それを埋めるための努力も必要になり、若者にとっての負担になる。なかなか埋めることができなかった場合は、働く意欲の減退にも繋がりがかねない。

また、個性や個人の尊重により、一定の人とのみ関わるという個別のコミュニティが増えた。さらに、情報化と共に育った若者たちは携帯電話などを用いることで直接顔を合わせなくても他者と交流を図ることのできる環境にいる。SNS を通じて同じ趣味や価値観を持つ仲間との交流が持てるようになった反面、自分と合わない人との交流を避けることも容易にできてしまう。そのため、多様な考えの人、異なる世代との直接的な交流に慣れておらず、職場などでうまく周囲とコミュニケーションがとれないという問題が生じる可能性がある。

若者の持っている強みを活かし社会で活躍する人材となるためにも、これらの課題を解消していくことが求められるだろう。職場では社員同士の交流の機会を積極的に設け、仕事に関する指導を行ったり、コミュニケーション能力などを育んだりする支援を組織としてもしていき、若者自らもそれらを身につけ、高める姿勢を持つことが求められる。

以上

(約 1,000 字)